

令和8年度 アユ遡上調査結果（速報）

1. 目的

武庫川では、アユを武庫川のシンボル・フィッシュとして位置づけ、魚類にとってより望ましい川づくりに努めている。
この調査は、アユの遡上状況の把握を目的として実施した。

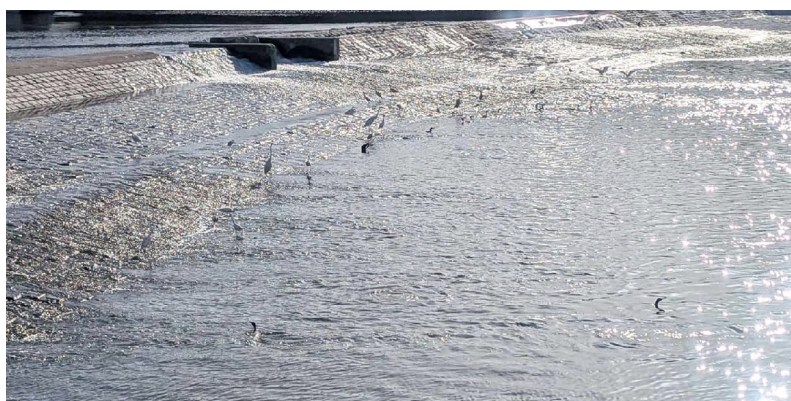
2. 調査概要

調査日程：令和8年4月 28、30日(9:00～15:00)

令和8年5月 18～19日(7:00～14:00)

調査方法：潜水目視調査（個体数カウント）

調査地点：1号床止工（撤去済）～8号床止工周辺



令和8年5月18日

写真1 調査時の2号床止工周辺の状況（水鳥の群れ）



図1 調査位置図

3. アユの確認状況

今回の調査では、合計900個体のアユが確認された。

このうち、899個体が5月調査で確認され、550個体は2号床止工周辺で確認された。

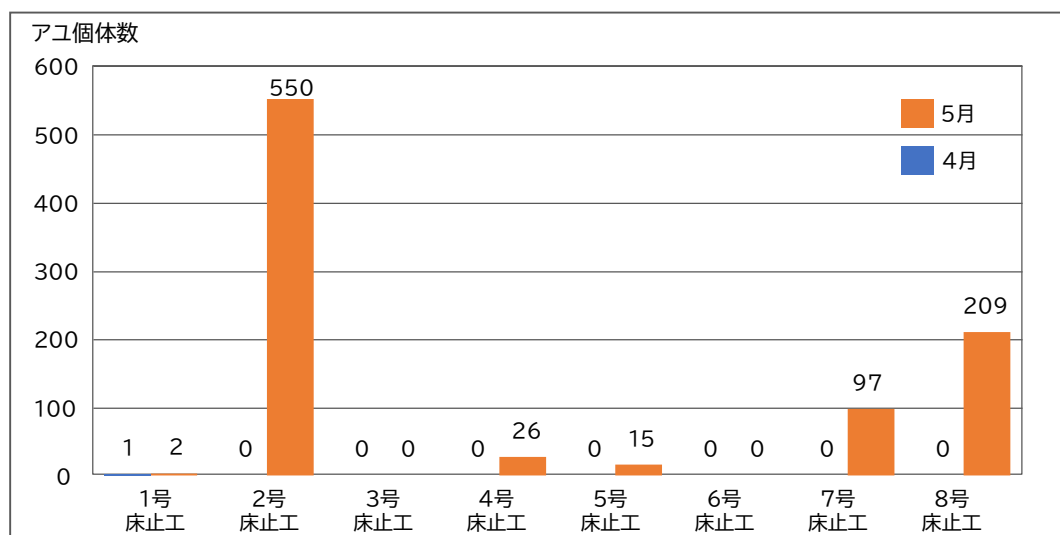


図2 各床止工近傍のアユの個体数

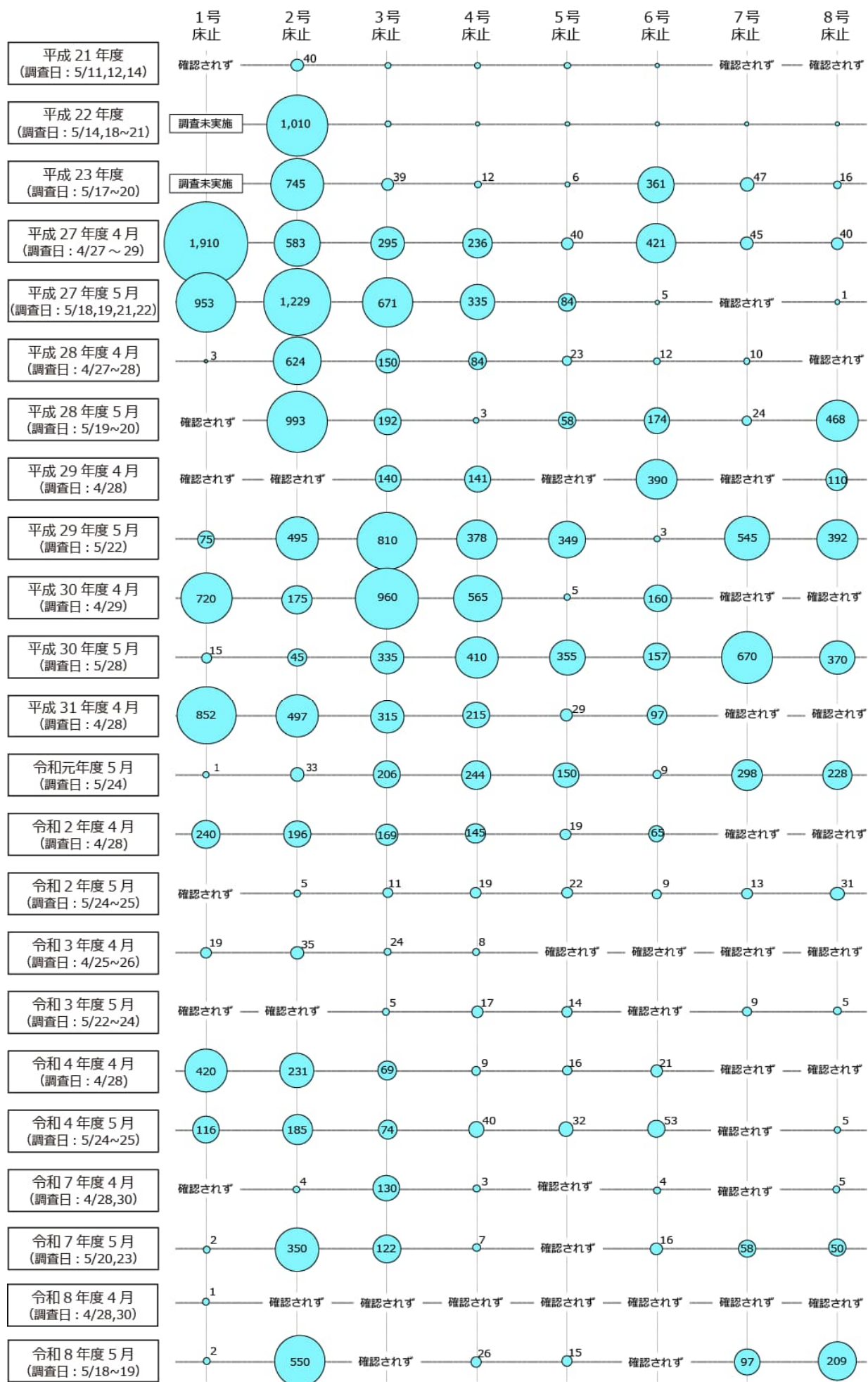


図 3 各床止工周辺域で確認されたアユの個体数

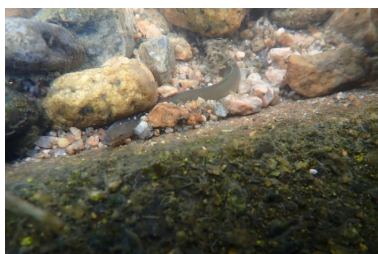
4. 結果のまとめ

- ・令和8年度4月調査では調査前の4月中旬以降にまとまった雨が多く降り、調査時の河川水の濁りのために目視観察が難しい状況であった。
- ・アユの確認個体数は、4月調査時が1個体、5月調査時が899個体であり、5月の調査結果は過去5年間の5月の平均個体数488個体より多かった。
- ・最も多くの個体が確認されたのは、令和7年度と同じく2号床止工の下流側（5月）であった。
- ・2号床止工では、傾斜が緩やかな浅瀬が広がっており、アユが遡上しやすい環境であるといえるが、床止工内に魚を捕食しようとするアオサギやカワウ等が多数飛来している状況も見られた。
- ・5月調査では7号及び8号床止工の下流で比較的多くの個体数が確認されており、床止工の改修により生物が移動しやすい河川環境になってきている可能性が示唆された。

<参考>

現地調査中に、アユのほか、ニホンウナギ、コイ、ボラ、オイカワ、クロダイ、ナマズ、チチブ属、ゴクラクハゼ、ウキゴリ属など多くの魚種やモクズガニ、ヒラテテナガエビなどが確認された。なお、河川水の濁り等のため、目視観察では種の識別が困難な種が多く、そのような種は属で区分している。

調査時に確認された主な魚種の写真を示す。



ニホンウナギ（4号床止工）



アカザ（3号床止工）



ギギ（2号床止工）



カワヨシノボリ（6号床止工）



ウキゴリ属（4号床止工）



ヒラテテナガエビ（3号床止工）